作文部門

☆総　評☆

今年は、例年よりも取り上げる題材のかたよりが見受けられ、「祖父母」「生き物」「病気・事故」をテーマとした作品が多かったように思います。何か特別な出来事がないと作文が書けないというわけではありません。ふだんの生活の中で、はっと気づいたことや、感動したことを自分なりの言葉で素直に表現することが大切です。

文章力は、全体的に伸びてきていますが、字のまちがいがあったり、段落の初めが一字下げになっていなかったりするものも少なくありませんでした。書いた後で読み返し、文章全体の構成や内容を見直してほしいものです。

「作文を書く」ことによって、自分の生活を見つめ、「喜び」「悲しみ」をより深く感じ取ってほしいと思います。次回も、自分の思ったこと、感じたことを素直に表現した力作を期待します。

文部大臣奨励賞

「わたしのおじいちゃん」

群馬県群馬大学教育学部附属小学校
三年　高橋　麻衣

わたしのおじいちゃんは、渋川に住んでいます。名前は、昭七といいます。昭和七年に生まれたので、昭七と、名前がついたそうです。そして、二月二十九日に生まれたので、四年に一回しか、たん生日がありません。まだ、十三才と言っていました。わたしは、

「そんなしらが頭の十三才の人は、見たことがないよ。」

とわらってしまいました。

おじいちゃんは、昔、やお屋さんをしていたそうです。今は、市場から、水上の旅館に、野さいをとどける仕事をしています。毎朝五時ごろに起きて、トラックで、市場へ行きます。

わたしは、「市場は、どんな所だろう。」そしておじいちゃんの仕事をしているところが見たくて、夏休みに、市場へ行ってみました。市場は、とても広くて、まいごになってしまいそうです。わたしは、びっくりしました。そして、魚と野さいとくだものの売り場に、分かれていて、ダンボール箱が、山のようにおいてありました。そこに、番ごうのついたぼうしをかぶっている人が、たくさんいました。おじいちゃんも、ぼうしをかぶっていました。わたしは、どうしてぼうしに番ごうがついているのか、おじいちゃんに聞いてみました。

「この番ごうは、名前のかわりだよ。このぼうしがないとやさいが買えないんだよ。」

と、教えてくれました。

わたしは、おじいちゃんが、しいたけを買っている所を見ました。売る人は、おもしろい声で、早口で、何か言っていました。買う人は、どなっているようで、けんかをしているみたいでした。わたしは、「何を言っているのだろう。」とふしぎに思ったので、

「何を言っていたんですか。」

と、市場の人に、しつもんしました。

「このしいたけを、一箱いくらで売るけど、だれが買いますか。と、市場の言葉で言っていたんだよ。おもしろい言い方だから、わからなかったでしょ。」

とやさしく教えてくれました。市場には、むずかしい市場語があって、大きな声を出さないと、品物が買えないことがわかりました。

それから、おじいちゃんは、買った、たくさんのやさいや、くだものを、トラックにのせました。わたしは、

「手つだおうか。」

と言って、箱を持ち上げようと思ったけれど、とても重くて、むりでした。おじいちゃん一人では、たいへんそうなので「何か手つだいたいな。」と見ていたら、おじいちゃんは、わたしをにもつといっしょに、トラックにのせてくれました。その時のおじいちゃんの顔は、あせで、びっしょりでした。おじいちゃんって、力持ちだな。

トラックは、にもつでいっぱいになって、いよいよ水上へ出発です。今日は、とくべつ、わたしも水上までつれて行ってもらうことにしました。

おじいちゃんといっしょにドライブができるなんてうれしいけれど、おじいちゃんは、にもつがふえて、たいへんかな。わたしは、おじいちゃんがいねむり運転しないように、よこで、歌を歌ったり、おしゃべりをしていました。

水上の、おくとね館について、今度は、にもつをおろしました。その時にも、おじいちゃんは、あせで、びっしょり。これで、今日の仕事は、おわりです。

「おじいちゃん、おつかれさま。おじいちゃんのお仕事は、たいへんなんだね。」

と、言ったら、おじいちゃんは、にっこりわらっていました。

その後、水上駅の回りを走る、馬車にのせてもらいました。おじいちゃんといっしょに来てよかったな。

夏の水上は、とてもけしきがいいけれど、冬は、雪でうまってしまうそうです。そんな雪の日でも、おじいちゃんは、毎日やさいを運びます。

「さむい日でも、にもつをおろすと、あせびっしょりになるんだよ。」

と、言っていました。

わたしのおじいちゃんは、がんばり屋さん。やさしいだけではなく、力持ちで、毎日、あせびっしょりになって、はたらいていることがわかりました。

わたしは、今までよりも、もっとおじいちゃんがすきになりました。

昭七おじいちゃん。いつまでも、元気でいてね。

▶身近な人である「おじいちゃん」を、素直に愛情深く観察した温かい作品です。「おじいちゃん」の労働についての事実をしっかりととらえて、労働の大変さ、喜びをそのまま正直に表現しています。ただ見つめているだけではなく、自分で新しいものを発見し、何かを知ろうとする姿勢が、会話文を用いながらかざることなくよく書かれており、とてもユーモラスな印象を与えます。作品全体に「おじいちゃん」によりそう作者の大きな愛情が感じられ、読み手をほっとさせてくれる作品になっています。

優秀賞

「お母さんのいない日」　愛知県豊橋市立大村小五年　石黒和志

お母さんが入院して家にいなかった数日間の思いが、素直に書かれている作品です。お母さんに対する愛情が読み手に伝わり、ほほえましいものになっています。また、印象的な文章も多く、表現にも光ったものが見られます。

「私を立ち止まらせてくれたこと」　群馬県群馬大学教育学部附属中二年　林　里奈

祖母の遺稿集を見て、「生きる」ということの意味を考えることになった作者の意識がえがかれています。「生きる」ということの大きなテーマをかかげているため、全体的に重い作品になっていますが文章の表現力はすばらしいものがあります。

「私の絵馬」　神奈川県横浜学院女子中三年　尾上みほ

作品の中に短歌を取り入れた独特の構成になっています。命の大切さを感じた作者の感動が作品全体に感じられ、読み手の深い感動をさそいます。

「固いから」　愛知県安城市立安城西中三年　神本美紀

日常のふとした瞬間に感じた人間の「差別意識」をテーマにし、その「差別意識」が自分の中でどのように変化していったかを取りあつかった作品です。等身大の自分の目から「差別意識」というものをとらえています。

読書感想文部門

☆総　評☆

今年は応募点数が昨年より四百点以上増え、全国から力作が集まりました。あらすじを長々と説明したり、だれかの言葉を借りてきてお決まりの道義的な結論を出してまとめたりしたものではなく、本の内容をていねいに読み取ったうえで、感じたことや思ったことをのびのびと自分の言葉で表現した作品が評価されました。〝感想文〟なのですから、型にはまった内容にする必要はなく、自分らしさを大切にして、素直に表現してほしいものです。

みなさんがさまざまな本を読んでいくうちに、すばらしい本と出会い、感動した心をそのまま文章に書き表すことによって、自分の考えを深め、自分の世界を広げて、成長していくことを期待します。

文部大臣奨励賞

「『いわさきちひろ』を読んで」

東京都星美学園小学校
三年　青木　希美

ぷくぷくした赤ちゃんのはだ。わすれられないかわいいひとみ。そんな絵をかくちひろさんの事大すきになりました。そして、この本を読んでちひろさんの絵にあらわれているやさしさのひみつが、わかったような気がします。

私と同じ三年生のころから、とても絵がじょうずで、クラスの人気者。でも少しもいばらず、やさしい子だったそうです。どんな絵をかいていたんだろう。見てみたいな。そして、十二才の時、お母さんが教えている学校に、良いせいせきで入学したそうです。私がおどろいた事は、このころの時代は、「よいつまになり、かしこい母になる。」が目ひょうで自由が少なく、きびしい生活をしていた事です。そんな中でも、絵や洋さいを習い始めたり、それに書にも才のうがあり、平安文字を習い、後になって教えるほどにもなったりしたそうです。ピアノは、自分で楽ふを買って来て、次の日には、ひけているそんなすごいちひろさんでした。習い事も、自分の意しでやっていたけど、それを口に出せる時代ではありませんでした。だから、けっこん相手もお母さんのえらんだ人と、すきではないけどけっこんし、一年でご主人が自さつをしてしまうという、悲しいけっかになりました。

このつらさをのりこえてからのちひろさんは、自分の意しで、なんでも行動するようになりました。このころ、せんそうで家がやかれ、しんしゅうで終せんをむかえたちひろさんは、アルプスの山を見てすばらしい事を思いました。

「人とところしあいするせんそうはおろかだ。」と、山が語りかけているようだ、と、思ったそうです。私も、この夏アルプスの山を見て、その時、小さなことでくよくよしたり、けんかをしたりする事が、なんてくだらないことなんだろうと思った事をおぼえています。そして、ちひろさんがかんどうした言葉で、私もかんどうした言葉があります。それは、

「世界全体がしあわせにならないうちは、こ人のしあわせはありえない。」

という、宮沢けんじの言葉です。こういう言葉にかんどうできるちひろさんだからこそ、見る人を平和な心にする絵がかけるのだと思います。

一人で東京のおばさんの家で、画家で食べていこうとがんばっているころ、すばらしい人と出会い、けっこんし、男の子も生まれました。そして子育てをしながら、童画家としてたくさんの仕事をがんばってきました。

ベトナムでせんそうがおきた時も、いつもぎせいになる子どもたちのすがたを、つらい思いでかきました。せんそうをにくんでいた、ちひろさんの思いが、この時か

いた子どもの目にあらわれているようにかんじます。その後、しばらくして体をこわし、入院。がんが発見され、一年後、五十五才でなくなりました。

この本を読んでいると中、ちひろさんの本物の絵が見たくなり、お母さんと、「いわさきちひろ絵本美じゅつ館」をたずねました。

なんだかちひろさんが、

「いらっしゃい。こちらへどうぞ！」

とむかえてくれるような気がしてドキドキしながら行きました。美じゅつ館の中には、ちひろさんが仕事場につかっていた部屋そのままがあり、その部屋をじっと見ていると、本の中のちひろさんが目の前で絵をかいているようでした。

どの絵を見ても、私たちにはまねのできない色のつかい方、顔のひょうじょう。光の中からとび出した天しみたいな子どもたち。もう私は、ちひろさんの世界へひきこまれていくような気がしました。

愛と平和を一番大切にしていたちひろさん。

「小さないのちが、大きな平和という日の光に、つつまれる時、本当に幸せといえるでしょう。絵の中に、その日の光がさしてくれるといい。」

と、ちひろさんはねがっていたそうです。今、そのねがいは　かなえられていると美じゅつ館で絵を見て思いました。一目見ただけでも、私たちの心をきれいにする天しのような子どもたち。

かべにかけたちひろさんの絵を見ながらこれをかいています。じっと見ていたら、なんだか、音が聞こえてきます。

赤ちゃんがゆびをすう音。少女がおどっているくつの音。女の子がこわがって出ない、電話の音。いろいろまじって聞こえてきます。ちひろさんの絵が、いきいきして、すばらしいではたりないほどすごいから、私の耳に音をとどけてくれるのだと思います。

ちひろさん、あなたのやさしさと強さを感じます。心に平和をあたえてくれて、本当にありがとう。

▶「ぷくぷくした赤ちゃんのはだ。」という書き出しや、「本の中のちひろさんが目の前で絵をかいているようでした。」「じっと見ていたら、なんだか、音が聞こえてきます。」という表現にみられるように、感じたことを自分の手元までひきよせて、自分の言葉で書き表しています。また、本を読んでいる途中に、「いわさきちひろ絵本美術館」へ絵を見に行ったことで、作品の内容が深まったと思います。「いわさきちひろ」の美しさや、やさしさが青木さんと重なりあった、すばらしい作品です。

優秀賞

「『よだかの星』を読んで」

群馬県群馬大学教育学部附属小三年　林　早恵

主人公の〝よだか〟の気持ちや生きざまを、しっかり読み取っています。そして、簡単な感想で終わるのではなく、「いじめ」や「人間と生き物の共存」という問題に発展させながらも、自分の身近な出来事と結び付けて、考えを深めています。

林さんの〝やさしい気持ち〟が伝わってくる作品です。

「人間の価値――『あのころはフリードリヒがいた』を読んで」

大阪府大阪教育大学教育学部附属天王寺中二年　三木千夏

ユダヤ人であるがために、十七で死においやられた主人公を通して、「人間が人間を差別すること」「戦争の怖さ」について考えさせられたことが、リズム感のある文体で書き表されています。

本の内容を正確に読み取る力や、むだのない表現が評価されました。

「『真夜中の森で』を読んで」

岐阜県瑞浪市立日吉中三年　渡辺聖子

〝動物に対する深い愛情〟とはどんなことなのか、〝姉妹〟と〝森番〟のとった行動や考え方を比べながら、〝動物保護〟という問題を通して、自分自身へ〝多くの人を説得する方法〟という問題を投げかけ、自分なりの結論を導いています。難しいテーマですが、気負うことなく、感じたことや考えが素直にまとめられています。

その他の受賞作品

作文部門

◆優良賞　「のりちがえ」（愛徳学園小一年）岡本美紀　「もどって来た　つばめ」（豊田市立五ヶ丘小三年）石川直樹　「ぼくとカイコ様」（安達町立下川崎小五年）野地則明　「祖父の幸せはいつ」（増田町立増田中二年）勝田繭子

◆佳作　「わたしのスーパーおじいちゃん」（愛知教育大学附属岡崎小一年）岡田真依　「なつやすみのおてつだい」（岡崎市立連尺小一年）安岡直哉　「ナガサキアゲハ」（白百合学園小二年）大庭夏実　「剣道とお父さん」（愛知教育大学附属岡崎小二年）桑木哲平　「斎藤さん、こんにちは」（群馬大学教育学部附属小三年）林早恵　「野口記念館を訪ねて」（新潟大学教育学部附属新潟小四年）五十嵐雅之　「私のおばあちゃん」（前橋市立芳賀小五年）林友里　「キャンプの思い出」（愛徳学園小六年）温井恵美　「本当の愛鳥って何だろう」（江南市立古知野西小六年）和田しおり　「母のつぶやき」（日田市立南部中一年）安井祈

読書感想文部門

◆優良賞　「『クイール』へ」（栃木市立大宮北小一年）間中泰貴　「『森は生きている』を読んで…」（広陵町立真美ヶ丘第二小四年）中井千絵　「『ボク、ただいまレンタル中』を読んで」（大阪教育大学教育学部附属天王寺小五年）野村有希　「『ボク、ただいまレンタル中』を読んで」（市川市立中山小六年）作田喜慶　「ちがうことこそばんざい―『雨あがりのギンヤンマたち』を読んで―」（大阪教育大学教育学部附属天王寺中一年）稲田瑞穂　「『島へゆく』を読んで」（瑞浪市立日吉中三年）水野あすか

◆佳作　「『きつねとぶどう』をよんで」（星美学園小一年）石井翔　「『しまふくろう』をよんで」（豊田市立九久平小一年）黒柳愛香　「『ドリトル先生の動物園』を読んで」（大阪教育大学教育学部附属天王寺小三年）駿田尚志　「『アンネ＝フランク』を読んで」（豊田市立九久平小四年）竹内友江　「エイズとたたかった少年」（福井大学教育学部附属小六年）高嶋瑶子　「『カエルのからだと人のからだ』を読んで」（大阪市立堀川小六年）高橋直嗣　「真の環境保護とは？―『真夜中の森で』を読んで」（つくば市立手代木中一年）田口高也　「明と暗の心―『砂の器』を読んで」（大阪教育大学教育学部附属天王寺中一年）龍神慶　「『太陽の子』を読んで」（瑞浪市立日吉中三年）村瀬広美　「ｃｏｏ達の願いを心に」（大阪教育大学教育学部附属天王寺中三年）吉川知江

学校賞受賞校

◆優秀学校賞　岐阜県・柳津町立柳津小学校

◆優良学校賞　東京都・東京学芸大学附属小金井小学校　岐阜県・瑞浪市立瑞浪小学校　岐阜県・岐阜市立長良西小学校　大阪府・大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校

◆学校奨励賞　新潟県・新潟大学教育学部附属新潟小学校　愛知県・岡崎市立愛宕小学校　岐阜県・組合立境川中学校　大阪府・大阪教育大学教育学部附属天王寺小学校